

クロサイ誕生記

亀井 一成

① 角突きのトレーニング

Lesson: how to use one's horns.

② 生後30分、眼をあげわずかに首をあげる

Thirty minutes after birth: the baby opens its eyes and lifts its head.

③ 平均5-6分で左右の乳を飲み干してしまう

In 5-6 minutes the baby drains both breasts.

BIRTH OF A BLACK RHINOCEROS

By Issei Kamei, Oji Zoo, Kobe city.

A baby black rhinoceros was born at the Oji Zoo in Kobe on Sept. 8, 1969. Kobe Zoo is the only place in Japan where rhinoceroses have been born. There are two previous records: Nov. 16, 1963 and Nov. 2, 1965.

The mother does not lick the newborn baby. In this case the baby took over an hour to stand on its own feet, and after four hours it began to nurse.

Thirty days after birth it began to eat soft green grass. The horns began to appear about 60 days after birth, and the baby continues to do well.

1969年9月8日、神戸市立王子動物園では3度目のクロサイ誕生に、飼育職員一同祝杯をあげました。第1回の出産は1963年11月16日で、これは日本で初めてのことです。しかし、3回ともおすであったことが少し残念です。

気むずかしいおすとめす

現在日本にはアフリカ産のクロサイ（神戸、名古屋、大阪、福岡）、シロサイ（東京上野、仙台）、インドサイ（多摩）の3種類が飼育されていますが、いずれもおすとめすを同居させることに苦心しています。神戸ではめす親マミーが来園して1年後におす親トミーが到着しましたが、当時思いきって同居させたのです。結果は予想通り激しく角で突きあい、互いに負傷するという失敗に終わりました。そこで長い間隣りあわせの別居飼育が続けられ、その間格子越しに同じえさを食べさせるような工夫や、同じ容器の黒砂糖湯を飲ませるなど、毎日の世話に苦心しました。めすが年上で、しかも体の小さい若いおすがあとから入園したということも幸いしたのでしょうか。到着当時は夜はおすとめすを別室にわけ、昼間だけ運動場で時どき同居させました。その後5か月、ようやく昼夜とも完全な同居飼育に成功したのです。しかし、マミーの本格的な発情が現れ、完全な交配が認められたのは、同居



させてから2年2か月目のことです。到着当時3才としますと、初めての交配は5才だった訳です。ここでも注意しないと交配行為直前におすとめすが運動場を激しく突進し、角を突き合わせてかけまわるなど、まるで死斗を思わせることがよくあります。

クロサイの妊娠期間

めすの発情は妊娠しない限り約3週間おきに現れ、その期間は4～5日間です。この時おすめすとも食欲が減り、おすがめすを追いかけるなど挙動に変化があります。そのほかめすの体調などをよく観察していると発情を知ることができます。さて次にうまく受胎したかどうかです。生理的には受胎すると次の発情が現われないのがふつうですが、初めてのポビーの時は、本交配のあと1年3か月も発情がくりかえし現われたため、なん度も出産予定日を書き変えなくてはなりません。日本で初めてサイの子を産ませるのだというので、飼育者はやる心を押えきれず、つい早目の予定日を発表しては“当らぬも八卦”だと皆に笑われたものです。

しかし、受胎すれば当然の発情が現われないことは、その後3回の出産記録によって証明されました。つまり初産の時はめすのマミーがまだ若く、本交配が行なわれても受胎していなかったのです。それでは受胎をどのようにして知り、出産予定日をどのように計算すれば良いかということです。しかし、日本では初めてのことで、図鑑類や飼育ハンドブックなど手近な資料の記載をもとに予定日の計算をするほかありませんでした。これらの資料によれば、妊娠期間は16～18か月、あるいは530～540日となっていました。しかし当園の場合3回とも15.5か月とはるかに早く生まれたのです。しかも、あとで記しますが、第1回と第2回は初代マミー、第3回は2代目のマミーです。つまりめす2個

妊娠期間

	日数	月数
第1回	468日	約15.5か月
第2回	469日	約15.5か月
第3回	447日	約15か月(2代目マミー)

体の記録とも妊娠期間は15～15.5か月とはば一致しています。

生後4時間で授乳

出産時刻は第1回は午前10時、第2、第3回は午前6時すぎと、いずれも朝早く生まれていますが、飼育者にとって生まれた子がうまく乳を飲むまでは心配です。サイの母親は生まれたばかりの子をあまりかまわないのです。ほんの申訳程度に、時どき鼻をすりよせるだけで、ほとんど子をなめません。その上生まれた子が自力で起きあがるまで1時間以上もかかりました。(キリン、シマウマなど多くの草獣は20～30分で起きあがり、すぐ歩きはじめます。)また、前記のように記載されている妊娠期間より約2か月も早かったことから、つい早産で発育が悪いのではないかと、大変心配しました。

しかし、それは私たちの取り越し苦労だったようです。クロサイはゾウと同様に体に毛がありません。いや、むしろゾウには背や頭によく見るとかなり毛が生えていますが、クロサイはほとんど生えていないことに気づきました。生まれたばかりの子にも毛がありません。だから出産時の胎水の汚れも毛のある動物にくらべて大変早く乾くはずですが、このことを母親は心得ているのか、どうも子をなめようとしません。

また、サイの母親はねている子を少し離れて見守るのですが、これにも面白い理由が考えられます。それは、鼻の上の大きな角により盲点ができることです。真正面からではあまり近くは見にくらしく、いつも子から少し離れ、しかも横むきに見守っているようです。しかし、このような状態は子が歩きはじめるとがらりと変わり、子の方が親につきまといまいます。そして、小さな声でなく子の鼻声が聞こえだしました。子が“乳探し”をはじめたのです。私たちはまるで暗やみの中を手探りで乳房を探しているように見える子の動きが、はがゆくてなりません。生まれて初めての授乳が、子の生死を左右するのです。静かに祈るような気持で観察を続けること4時間あまり、3回とも生後4時間ご

ろ、子がなきはじめた直後に最初の授乳に成功したのです。ほ乳は親の乳房がかなり大きく乳量も多いためか、1回のほ乳時間が4～9分間とかなり長く、いったんほ乳がはじまると親は子が飲み終るまで、後足をわずかに開き全く動かさず十分に飲ませます。子の方も親の食事がゆっくり型のように、まるで味あうように吸い続けるのです。

角で子をつり上げた親

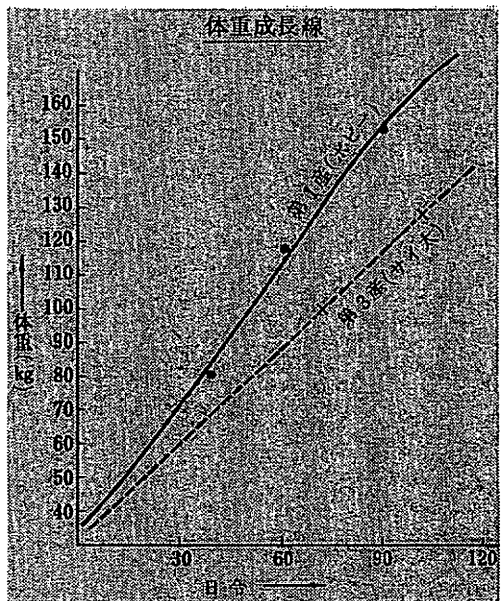
こうして本格的なほ乳にほっとした生後間もないころ、早くも親は角あそびのトレーニングをはじめました。ところが足の弱い子は足早に歩くのがせいっぱいで、親の思いどおりになりません。と次の瞬間、あのがった角を子の前足の小わきにさしこみ、子を持ちあげひょいと横へおろしなおすのです。サイ太を確かに角の上へのせ、わずかながら動いたのです。しかし、このような行動が見られるのはほんの数日で、子の足が丈夫になれば、子の方がつりあげられる直前に動いてしまい、全く見る事ができなくなります。

早いサイの発育

特に生後3、4日ごろからは乳状態が目立って良くなり、子はグンとしっかりします。そして生後20～25日ごろまでは、親のほ乳のほかはえさには全く見むきもせず、ひたすら乳ばかりを飲み続けます。しかし、次第に親の口元についた粉えや、やわらかい青草などに口をつけはじめ、生後30～40日ごろには一人前に親と同じえさを食べはじめます。そこで離乳がはじまったのかと思ったのですが、相変わらず親の乳を飲み続けます。だから成長が早いのでしょうか。

とにかくサイの成長は抜群です。生後4か月までの記録では、第1回のポビーは1日平均1.1から1.2キロの増加、第3回のサイ太は1日平均0.9から1.0キロの増加が記録されたのです。

このように成長する子サイの角はどのように生えてくるか大変興味もたれます。生後2か



月、えさを食べはじめるところ、最初の角がほんのわずか生えはじめ、生後3か月で3センチ、生後4か月で5センチとのびます。

忘れられない次男ロックの死

誕生記はここで終りなのですが、実は第1回のポビーに続いて第2回のロックまで生まれたことに、全国の動物園からたくさんの祝電がよせられました。しかし、思わぬ事故がおこったのです。1966年12月1日、次男ロックをもうけた翌年、母親マミーが倒れたのです。私たちの徹夜の看病もむなしく、マミーはまだ乳房のこいしいロックを残したまま死んだのです。

残されたロックは父親トミーのもとで育ちました。ところがある日1頭のめすがやってきたのです。その2代目マミー到着後7か月、父親トミーは1頭のおすサイに変わってしまいました。そしてロックは父親に裏切られ、外堀へ激しく突き落され、死んでしまったのです。

この新しくきた2代目マミーが、今またサイ太を育てているのです。三男坊サイ太は近い将来どこかの動物園に売られて行くのです。どうかサイ太の行先のみなさん、このようにサイ太誕生のかけにある悲話を忘れず、大切に可愛がって下さい。(神戸市立王子動物園)